

4. 調査、予測及び評価の結果

③-2 動物（陸域）

◆予測・評価

哺乳類（コウモリ類）について、内陸部を主な生息環境や渡りのルートとする重要な種については、陸域の設置や改変は行わない計画であることから、重大な影響の可能性は低いと評価する。一方、長距離移動を行う重要な種及び海洋、沿岸等の海域を主な生息環境や渡りのルートとする重要な種については、事業実施想定区域内において採餌場、繁殖地、空域の利用が想定されることから、施設の存在及び施設の稼働による重大な影響の可能性があると評価する。

また、事業実施想定区域の一部に海鳥の重要野鳥生息地（マリ-ツIBA）が含まれていることにより、重要な越冬場所や渡りのルートとして利用している等、海鳥の分布の可能性が考えられることから、施設の存在及び施設の稼働による重大な影響が生じる可能性があると評価する。

なお、上記の状況を踏まえ、今後の環境影響評価手続き及び詳細設計において、以下に示す事項に留意する。

[留意事項]

- ・哺乳類（コウモリ類）及び鳥類の生息状況を現地調査等により把握し、また、重要な種及び注目すべき生息地への影響の程度を適切に予測し、必要に応じて環境保全措置を検討する。
- ・渡りの移動ルートに留意し、移動状況を把握できるよう調査を実施し、事業による影響の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。

4. 調査、予測及び評価の結果

③-2 動物（海域）

◆予測・評価

海域を生息域とする重要な種については、地形改変及び施設の存在並びに施設の稼働による生息環境の変化が生じることから、重大な影響が海域の一部で生じる可能性があるとして評価する。

また、事業実施想定区域及びその周囲には、生物多様性の観点から重要度の高い海域及び海生生物の重要な生息環境が存在し、限られた範囲ではあるが、影響が生じる可能性があるとして評価する。

なお、上記の状況を踏まえ、今後の環境影響評価手続き及び詳細設計において、以下に示す事項に留意する。

[留意事項]

- ・今後実施する現地調査において、事業実施想定区域及びその周囲における海域に生息する動物の分布状況について把握したのちに、事業による影響の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。

4. 調査、予測及び評価の結果

④-1 植物（海域）

◆調査結果

①海域に生育する植物

・事業実施想定区域及びその周囲では、海藻草類のコアマモ1種が重要な種として確認された。

②藻場の分布状況

・事業実施想定区域の周囲である浜名湖にアマモ場が、天竜川河口付近の沿岸に海藻藻場が若干存在する。



4. 調査、予測及び評価の結果

④-2 植物（海域）

◆予測・評価

海域に生育する植物については、内湾や河口の浅海域に生育する種であることから、重大な影響の回避又は低減が図られていると評価する。

なお、上記の状況を踏まえ、今後の環境影響評価手続き及び詳細設計において、以下に示す事項に留意する。

[留意事項]

- ・今後実施する現地調査において、事業実施想定区域及びその周囲における植物の生育状況について把握したのちに、事業による影響の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。

4. 調査、予測及び評価の結果

⑤-1 景観

◆調査結果

本事業で設置を想定している風力発電機の高さは最大335mであることから、調査地域は、垂直見込角が1.0度以上になると想定される事業実施想定区域から19.2kmの範囲とした。

①主要な眺望点

・事業実施想定区域及びその周囲にある主要な眺望点の分布状況は、中田島砂丘等が30地点を選定した。

